

令和 6 年度

3 市 3 町 在宅医療・介護連携推進事業 実績報告書

一般社団法人 泉佐野泉南医師会地域連携室

令和 7 年 3 月 31 日

本事業は、医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者に対して、在宅医療と介護サービスを一体的に提供することにより、人生の最期まで住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることのできる社会の実現を図ることを目的とし、泉佐野市、泉南市、阪南市、熊取町、田尻町、岬町と本医師会地域連携室との委託契約により、協働で実施するものです。

今年度も昨年度に引き続き、上記 6 市町との協議の結果、下記の重点項目を掲げ、年度当初に作成した事業計画に基づき事業を実施しました。在宅医療・介護連携推進の 4 つの視点（入退院支援、日常の療養支援、急変時対応、看取り）に沿って、1. 医療・介護関係機関の訪問 2. ①多職種研修会 ②介護保険施設情報交換会 3. 本事業の推進体制の構築 4. 在宅医療・介護連携相談窓口 5. その他の活動を展開しています。

今年度の総括及び次年度の方向性

○総括

今年度の活動は、地域連携と多職種協働を強化することを目指し、さまざまな取り組みを実施しました。以下、今年度の主な成果について総括します。

1. 人生会議（ACP）に関する取り組み

今年度は、3 市 3 町の広域メリットを活かし、多職種による研修会を企画しました。この研修会を基盤に、その後、各市町で持ち帰り研修を実施しました。各市町に合った研修内容や取り組みが行われ、地域に根ざした活動が広がりました。このような多職種協働の研修活動は、ACP の普及において非常に効果的であり、今後も継続的に実施していく必要があります。

2. 介護保険施設情報交換会

今年度の介護保険施設情報交換会では、病院のMSW（医療ソーシャルワーカー）を迎え、施設と病院の間で困りごとを共有する機会が生まれました。これにより「顔の見える関係」が築かれ、実務上の連携が深まりました。情報交換会は7回目を迎え、初回は特養、保健所、医師、行政、医師会地域連携室の5職種でスタートしましたが、回を重ねるごとに参加職種が増え、2回目からは救急隊（消防）の参加があり、さらに老健や病院のMSWも加わり、最終的には9職種が参加するまでに成長しました。特に、施設側スタッフが運営に関与し始めたことは、運営の主体性を高め、今後の継続的な活動に大きな力を与えています。

3. 医療機関・事業所訪問

今年度は、サービス付き高齢者住宅、有料老人ホーム、歯科診療所などの医療機関および事業所の訪問を開始しました。これらの訪問を通じて、各施設が抱える課題の把握と、解決に向けた取り組みが進められています。今後も、事業所訪問を継続的に実施し、課題解決に向けた取り組みを地域全体で推進していきます。

○今後の展望

今年度の活動を通じて、多職種間の連携と地域内での情報共有の重要性が再認識されました。今後もこの流れを継続し、さらに多くの事業所や医療機関、地域住民との連携を深めることが重要です。また、特にACPに関しては、3市3町の広域連携を活かし、引き続き研修活動や情報交換を進めていきます。

今年度の取り組みを踏まえ、次年度も引き続き地域全体での支援体制の強化と、課題解決に向けた協力体制の構築を目指して取り組んでいきます。

在宅医療・介護連携推進事業

■4つの視点

- I 入退院支援
- II 日常の療養支援
- III 急変時対応
- IV 看取り



- 1. 医療・介護関係機関の訪問
- 2. ①多職種研修会
②介護保険施設情報交換会
- 3. 本事業の推進体制の構築
- 4. 在宅医療・介護連携相談窓口
- 5. その他

4つの視点に沿って、
右の諸活動を展開

1. 医療・介護関係機関の訪問

◎取り組み結果

令和7年3月末時点

令和6年度の訪問内訳						
	診療所	歯科医院	訪問看護	薬局	高齢者住宅・施設	その他
泉佐野市	9	3	1	0	0	5
泉南市	5	0	0	0	0	1
阪南市	10	11	0	2	2	1
熊取町	5	1	6	0	5	3
田尻町	6	0	0	0	0	0
岬町	14	1	4	2	2	0
合計	49	16	11	4	9	10

- ・今年度は、医療機関をはじめ、サービス付き高齢者向け住宅、有料老人ホーム、歯科医院など合計 99 機関への訪問を実施しました（昨年度より 42 件増）。
- ・訪問を通じて、サービス付き高齢者住宅における丁寧な看取りの実践や、訪問診療を行っていない歯科医院からも地域の実情を伺うことができ、医師会地域連携室及び地域包括支援センターの活動紹介・情報共有を進める貴重な機会となりました。
- ・訪問件数増加の背景には、各種研修会の案内や地域活動に関する情報提供、報告のために出向いたことが挙げられます。短時間や声掛けのみの訪問も含まれますが、関係構築や研修会参加につながるなど、実りある活動となりました。
- ・新規開業や院長交代の診療所へも早期訪問を行い、医療機関の特徴や在宅医療への関心を把握しました。在宅医療に協力的な医師の情報収集にもつなげることができました。
- ・地域の医療・介護資源や現場の課題を直接把握することで、在宅医療・介護連携推進事業への理解と協力を得ることができました。今後も現状の把握と情報提供を継続し、地域連携の深化を図っていきます。

【参考】

■ 医師会在宅部会の動き

- ・令和4年に再結成された在宅部会。今年度は令和6年11月9日（土）、関西エアポートワシントンホテルにて、研修会・懇親会を実施しました。
（18名参加（内医師会員12名））

2.①—I 3市3町多職種研修会

日時	内容
令和6年8月10日(土) 14:30~17:00 会場：りんくう教育研修棟 3階 大会議室 懇親会：ホテルベイガルス 14階 ザ・スカイレストラン	多職種連携で取り組む ACP ~“その人らしい暮らし”や“大切にしたいこと”をつなぎ、 叶えるには~ 内容 ○ 第1部 基調講演 「“これまでの暮らし、大切にしたいこと”を丁寧に紡ぎ、つなぎ、叶えていくために~ACPの始まりは、暮らしの場、日常の対話から生まれる~」 講師 宇都宮 宏子氏 (在宅ケア移行支援研究所代表) ○ 第2部 グループワーク・全体共有 テーマ 【3市3町の「ACP」の輪を広げよう!】 ○ 参加人数 研修会：113人、懇親会：66人

令和6年度 3市3町医療・介護多職種連携研修会

多職種連携で取り組むACP

~“その人らしい暮らし”や“大切にしたいこと”をつなぎ、叶えるには~

3市3町の「ACP」の輪を広げよう!
 3市3町では、「人生の最後まで望む生き方ができる3市3町」をめざす豪として定めています。ご本人の思いを汲み、叶えるためには、多職種による医療・ケアチームが連携し、それぞれの立場でACPに関わることが大切ではないでしょうか?そして、そんな思いを持つ専門職の輪を、一緒に広げませんか?
 第2部では、グループワークで市町を超えて交流しながら、わがまちをめざすACPについて、一緒に学び、考えてみましょう!

【日時】令和6年8月10日(土) 14:30~17:00

【場所】りんくう教育研修棟 3階大会議室 **参加費 無料**

【対象】医療関係者・介護事業所等の関係者

内容 第1部 基調講演
 「“これまでの暮らし、大切にしたいこと”を丁寧に紡ぎ、つなぎ、叶えていくために~ACPの始まりは、暮らしの場、日常の対話から生まれる~」
 講師：宇都宮 宏子さん (在宅ケア移行支援研究所代表)

第2部 グループワーク・全体共有
 テーマは当日発表します。
 多職種みんなで語りましょう!

 【申込・問合せ】申込期限：7月10日(水)まで
 () 課 () 係
 MCS (つなぎ) または下記にてご連絡ください。
 TEL: () メール: ()

★研修会終了後、懇親会があります。
 場所：ホテルベイガルス 14階 ザ・スカイレストラン
 時間：17:45頃~ 会費：5,000円 (バス送迎あり)
 ※8/8以降のキャンセルについてはキャンセル料がかかります。
 【懇親会についての問合せ】
 泉佐野市医師会 庶務課 澤田 聖子
 電話：072-464-8123
 メール：renka@isano.osaka.med.or.jp

共催：泉佐野市医師会
 泉佐野市、泉南市、阪南市、熊取町、田尻町、岬町

※医師会員***本研修会の日本医師会生涯教育取得単位申請中



◎結果及び考察

- ・本研修会では、宇都宮宏子先生による基調講演「多職種で取り組む ACP について」を拝聴し、その後、「3 市 3 町の「ACP」の輪を広げよう！」をテーマに、グループワークを行いました。
グループワークでは、「ACP は書くことが目的ではなく、対話を重ねるプロセスの中で生まれてくるもの」「ACP は“ピースの欠片”のようなものであり、その一つひとつを丁寧に集めていくことが大切である」など、多くの気づきや意見が共有されました。
- ・この研修会の成果は、各市町へと持ち帰られ、市町ごとの研修会等の開催につながりました。現状としては、ACP の普及活動は一定程度進んでいるものの、住民の行動変容には至っていない課題があります。
そのため、まずは多職種を対象とした話し合いや研修会を通じて ACP の理解を深めることが重要であるとの認識が共有されました。実際に、各市町では多職種間での対話を重ねる中で、市町の特徴を活かした人生会議（ACP）の取り組みへと発展しています。

◎各市町持ち帰り研修会について

各市町持ち帰り研修会について

目的：3市3町医療・介護多職種研修会の参加者が
研修会内容を各市町に持ち帰り、進め広げて行く

- ①研修会参加者から所属市町の専門職へ「日常の対話からの気づき」「本人主体のACP」等について感想の共有・意見交換
- ②個々の専門職が職種ごとに感じ方が違うことを気づきそれを共有する

各市町持ち帰り研修会について

8月10日研修のACPを各市町で
どう広げていこうか

ACPの普及活動行っているが市民の行動変容に至っていない

まずは多職種を対象に研修会など行う

各市町の特徴を生かしたACPの取り組みに発展

◎事例（一部）

・泉佐野市

「多職種連携盛り上げ隊」と名付けた多職種のグループが立ち上がり、事務局とともに活動を推進。ACP に限らず日頃の思いや課題を語り合える多職種座談会を開催しました。

・熊取町

町の状況に合わせた ACP 啓発ツールを多職種で協働して企画・作成し、住民への周知・啓発活動を行いました。

・泉南市

8 月 10 日の研修参加医師による講演と多職種によるグループワークを実施し、専門職間の理解と交流を深める場となりました。

・田尻町

多職種と住民と一緒に「もしものための話し合い（＝もしバナ）」を行うゲーム形式を取り入れた住民向け講演会を開催。価値観や大切にしていることを語り合うきっかけを提供しました。

・岬町

「ACP は切り出しにくい」という声を受け、ロールプレイ形式による疑似体験を通じて、対話の進め方やスキルの習得に取り組みました。

・阪南市

看取りを経験した娘（薬剤師）と、その家族を支えた訪問看護師を講師に迎え、ACP をテーマにした市民公開講座を開催。93 人が参加し、市民の関心の高さがうかがえました。

このほかにも、3 市 3 町において、多職種と住民が協働しながら、ACP の普及に向けた様々な取り組みが展開されました。

多職種研修会 I の開催 →市町の研修会につながった



市民公開講座（阪南市 市民93名参加）



グループワーク
（岬町 ケアマネ等 20名参加）

2.①一Ⅱ 3市3町多職種研修会

日時	内容
令和7年2月15日(土) 15:30~17:00 会場：りんくう教育研修棟 3階 大会議室 懇親会：屋台居酒屋大阪満マル 泉佐野店	「いつまでも美味しく食べたい」を多職種で支える地域をめざして！ ○内容 『いつまでも口から食べることに焦点をあて、その人の望む生き方を叶えるために、専門職から口腔ケアや誤嚥予防の方法を学ぶ』 座長 西原 功 氏 (泉佐野泉南医師会理事兼地域連携室室長) 高橋 美香 氏 (STサロン主宰 言語聴覚士) 講師 西田 栄昭 氏 (歯科医師：西田歯科院長・泉佐野市) 大森 かずみ 氏 (歯科衛生士：大阪歯科衛生士会) 緒方 誠也 氏 (言語聴覚士：訪問STととと泉佐野・泉佐野市) 根来 光哉 氏 (管理栄養士：くれよん薬局・阪南市) ○参加人数 研修会：183人、懇親会：70人

令和6年度 第2回 3市3町医療・介護多職種連携研修会
 参加職種 定員200名

「いつまでも美味しく食べたい」を多職種で支える地域をめざして！

日時 令和7年2月15日(土) 15:30~17:00
 場所 りんくう教育研修棟 3階大会議室

いつまでも口から食べることに焦点をあて、その人の望む生き方を叶えるために、専門職から口腔ケアや誤嚥予防の方法を学び、一緒に実践しませんか！

座長 西原 功 氏 (泉佐野泉南医師会理事兼 地域連携室長)
 高橋 美香 氏 (STサロン主宰 言語聴覚士)

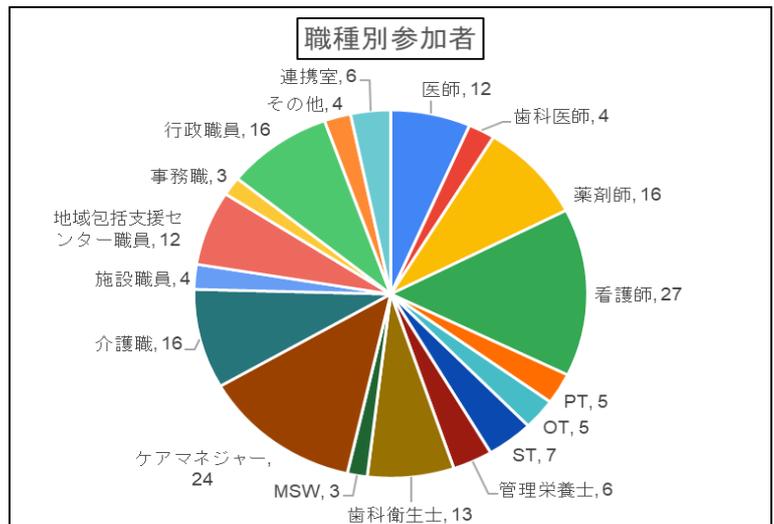
講演
 西田 栄昭 氏 (歯科医師：西田歯科院長・泉佐野市)
 大森 かずみ 氏 (歯科衛生士：大阪府歯科衛生士会)
 緒方 誠也 氏 (言語聴覚士：訪問ステーションととと泉佐野・泉佐野市)
 根来 光哉 氏 (管理栄養士：くれよん薬局・阪南市)

懇親会のご案内
 研修会終了後 17:45ごろから
 場所：屋台居酒屋 大阪満マル 泉佐野店
 南海泉佐野駅 海側出てすぐ 島貴族の2階
 会費：3000円

申込みは Google フォームで

お問い合わせ 泉佐野泉南医師会地域連携室 TEL:072-464-6123

共催：泉佐野泉南医師会 泉佐野市、泉南市、阪南市、熊取町、田尻町、岬町



◎結果及び考察

- ・「いつまでも美味しく食べたいを多職種で支える地域をめざして！」というテーマで、歯科口腔嚥下に関連する 4 職種を講師に迎えて実施しました。
- ・参加職種は 18 職種にのぼり、研修への関心の高さがうかがえました。
- ・アンケートでは、「ST（言語聴覚士）や栄養士が地域には少ないことを知った」「地域で連携できる体制を整えないと、口腔や栄養面に問題があってもそのままにしてしまう」といった本音の感想が寄せられました。

◎今後の取り組み

- ・今後も専門職のスキル向上を目的とした研修会を実施し、多職種で在宅生活や地域での暮らしを支えるという意識を広げていきたいと考えています。

2. ②3市3町介護保険施設情報交換会

日時	内容
令和 6 年 7 月 16 日(火) 16:00~17:30 会場：たじりふれ愛センター 4 階 研修室	「第 6 回 介護保険施設情報交換会」 1. 「能登半島地震の災害現場からの報告」 講師 りんくう総合医療センター 救急診療科部長 兼 危機管理室長 成田 麻衣子 氏 2. グループワーク 「災害時の備えについて」 3. 災害時の保健所の役割について 泉佐野保健所長 柴田 敏之 氏 参加施設数 特別養護老人ホーム 12 施設/17 施設 介護老人保健施設 4 施設/10 施設 介護医療院 1 施設/1 施設
令和 7 年 1 月 18 日(土) 15:00~16:30 会場：たじりふれ愛センター 4 階 研修室	「第 7 回 介護保険施設情報交換会」 1. 「ACP の推進をととした在宅医療の体制整備」 講師 大阪府泉佐野保健所 企画調整課 保健師 神崎 早紀子 氏

	<p>りんくう総合医療センター 地域医療連携室 室長 中西 賢 氏</p> <p>泉州南広域消防本部 救急課救急管理係 係長 向井 秀之 氏</p> <p>2. グループワーク</p> <p>「どうい情報共有が必要と考えますか」 「施設に対して、または病院に対しての疑問や要望」</p> <p>参加施設数</p> <p>特別養護老人ホーム 9 施設/17 施設 介護老人保健施設 3 施設/10 施設 介護医療院 1 施設/1 施設 病院（MSW） 11 病院/24 病院</p>
--	--



（第 6 回 施設情報交換会）



（第 7 回 施設情報交換会）

◎結果及び考察

- ・第 6 回情報交換会（令和 6 年 7 月 16 日実施）では、能登半島地震発生直後から支援活動に参加した医師による報告が行われました。医師は、まず能登地域では施設の所在すら把握できず、資料を集めるだけで時間を要したことを共有しました。また、発震直後の救助活動が困難であり、施設内での対応が必要だったことも報告されました。この報告を受け、施設の方々からは「実際の状況に即した BCP（事業継続計画）を策定する重要性」についての意見が出されました。この意見は、今後の災害対応に向けての重要な指針となるものです。
- ・第 7 回情報交換会（令和 7 年 1 月 18 日実施）では、初めて病院の MSW の参加を要請し、病院関係者と施設職員との交流会を実施しました。参加者からは「病院の MSW と直接会い、交流できて良かった」という感想をいただき、情報交換の重要性が再確認されました。また、今後も病院関係者への参加呼びかけを行い、定期的な交流会の開催を継続することが確認されました。

◎ 今後の取り組み

今後の情報交換会においては、以下の取り組みを進めていきます。

① 病院との連携強化

- ・第 7 回で得られた意見を基に、今後も病院関係者との交流を深め、連携強化を図る予定です。また、病院側の MSW にも積極的にご参加いただき、施設職員との対話の場を増やしていきます。

② 定期的な情報交換会の開催

- ・情報交換会の継続的な実施を通じて、地域の医療・介護連携を深めていきます。参加者の意見を反映し、より実効性のある交流の場を提供するよう努めます。
- ・第 8 回においては、在宅医との意見交換、また施設の現状を知っていただきたいという施設の要望から、医師会在宅部会とのコラボ開催を検討しています。

・情報交換会は、地域の医療・福祉連携を強化する重要な場となっており、各回の開催を通じて得られた意見や情報は、今後の活動において重要な参考となります。特に、第 6 回での BCP に関する意見や、第 7 回での病院関係者との交流が今後の課題解決に大きく寄与すると考えています。今後も、地域のニーズに即した情報交換会の実施と参加者との連携を強化し、地域全体での支援体制を充実させていきます。

3. 本事業の推進体制の構築

【取組経過】

○事務担当者会議：毎月 1 回開催

於：たじりふれ愛センター 4 階会議室 時間：14:00～

月 日	内 容
令和6年4月9日（火）	令和6年度在宅医療・介護連携推進事業計画について
	委託事業計画に基づく各ワーキングについて
	多職種研修会について 等
令和6年5月14日（火）	各ワーキングの実施状況について（施設情報交換会及び多職種研修会）
	各市町の活動について情報共有
	地域連携室からの情報共有 等
令和6年6月11日（火）	各ワーキングの実施状況について（施設情報交換会及び多職種研修会）
	各市町の活動について情報共有
	地域連携室からの情報共有 等
令和6年7月9日（火）	各ワーキングの実施状況について（施設情報交換会及び多職種研修会）
	各市町の活動について情報共有
	地域連携室からの情報共有 等

令和6年8月20日（火）	各ワーキングの実施状況について（施設情報交換会及び多職種研修会）
	各市町の活動について情報共有
	地域連携室からの情報共有 等
令和6年9月10日（火）	振り返り（施設情報交換会及び多職種研修会）
	各市町の活動について情報共有
	地域連携室からの情報共有 等
令和6年10月8日（火）	各ワーキングの実施状況について（施設情報交換会及び多職種研修会）
	各市町の活動について情報共有
	地域連携室からの情報共有 等
令和6年11月12日（火）	各ワーキングの実施状況について（施設情報交換会及び多職種研修会）
	各市町の活動について情報共有
	地域連携室からの情報共有 等
令和6年12月10日（火）	各ワーキングの実施状況について（施設情報交換会及び多職種研修会）
	各市町の活動について情報共有
	代表者会議について
	地域連携室からの情報共有 等
令和7年1月14日（火）	各ワーキングの実施状況について（施設情報交換会及び多職種研修会）
	各市町の活動について情報共有
	代表者会議について
	地域連携室からの情報共有 等
令和7年2月18日（火）	振り返り（代表者会議・施設情報交換会・多職種研修会）
	各市町の活動について情報共有
	地域連携室からの情報共有 等
令和7年3月11日（火）	振り返り（代表者会議・施設情報交換会・多職種研修会）
	次年度の取組みについて
	各市町の活動について情報共有
	地域連携室からの情報共有 等

○事前打ち合わせ会議（幹事、副幹事市町と連携室により毎月1回開催）

○地域連携室会議 毎月1回程度開催

○コーディネーター会議 毎週火曜日開催

○各市町の代表者会議に参加 各市町の報告書参照

【3市3町泉州南圏域医療・介護連携推進会議】

日時	内容
令和7年2月15日（土） 14：00～15：20 会場：りんくう教育研修棟 3階 大会議室	1. 3市3町在宅医療・介護連携推進事業について ・令和6年度3市3町在宅医療・介護連携推進事業について ・「泉佐野泉南医師会圏域 医療介護連携マニュアル」の改定について 2. 各関係機関からの報告 3. 意見交換「フレイルについて」 4. 各市町の取組みについて 5. その他 参加： 38人

◎結果及び考察

（結果）

・今年度の代表者会議では、介護保険施設情報交換会からオブザーバーとして、特別養護老人ホームおよび泉州南広域消防本部の参加を得て開催されました。会議では「人生会議（ACP）の研修会」や「医療・ケアに関する情報共有シート」の重要性について話し合わせ、参加者からは「とても大事な話で、有益である」という感想をいただきました。また、泉佐野保健所より「医療・ケアに関する情報共有シート」の活用に向けた取組みについての報告が行われました。この取組みは、地域内での情報の共有を円滑に進めるための重要なステップとなることが確認されました。さらに、大阪府言語聴覚士会からは「フレイル」に関する情報提供がありました。フレイルは地域での身近な問題であり、これに対して多職種の連携が必要であることが強調されました。今後、6市町の課題としてフレイルに対する啓発や周知、研修が進められるべきだという意見が出されました。

（考察）

・今年度の代表者会議では、多職種の連携が非常に重要であることが再確認されました。「人生会議（ACP）」や「医療・ケアに関する情報共有シート」の有効性についての認識が深まり、これらのツールが地域連携を強化するために欠かせない要素であることが明確になりました。参加者からの感想にも見られるように、実際に現場で活用できる情報提供やシートの整備が求められています。

・泉佐野保健所からの報告にもあったように、情報共有の体制を強化することは、地域全体での協力を円滑に進めるために不可欠です。今後、情報連携シートを活用した実践的な取組みを進めることが、より効果的な地域支援につながると思います。

また、大阪府言語聴覚士会からのフレイルに関する情報提供は、地域における健康課題の一つとして重要です。フレイルの啓発や研修は、6市町で今後の課題として積極的に取り組むべきテーマであり、多職種間の連携をさらに深める必要があります。

◎今後の取り組み

- ・「人生会議（ACP）」や「情報共有シート」の活用をさらに促進し、地域内での情報連携を強化する。
- ・フレイルに関する啓発活動や研修を6市町で計画的に実施し、地域全体での予防と支援を推進する。
- ・今後も多職種間の連携を深め、課題に対する共同の取り組みを進める。

今後もこのような取り組みを継続的に進めていくことで、地域全体の福祉・医療支援体制の向上を目指していきます。

4. 在宅医療・介護連携相談窓口

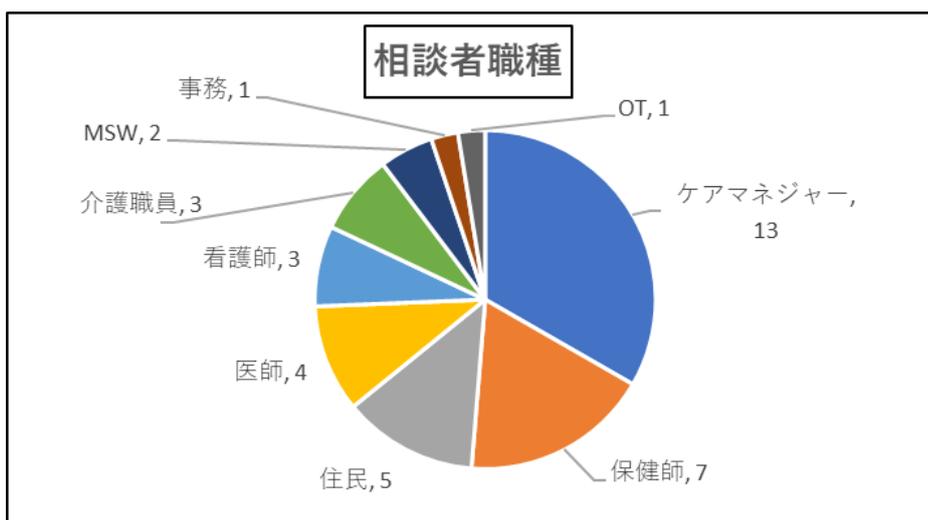
◎取り組み結果

相談件数は 39 件でした。

相談などの分類は以下のとおりです。

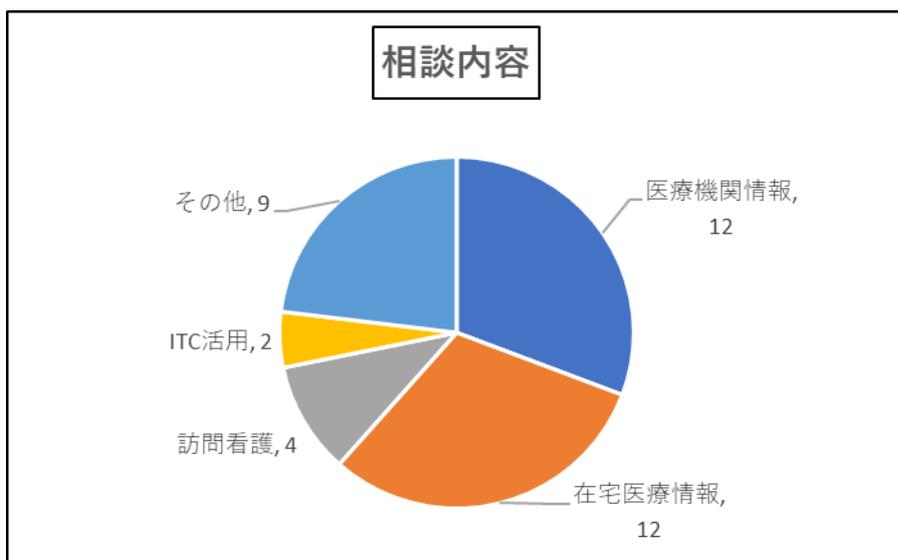
【相談者職種別分類】

相談者職種	件数
ケアマネジャー	13
保健師	7
住民	5
医師	4
看護師	3
介護職員	3
MSW	2
事務	1
OT	1
合計	39



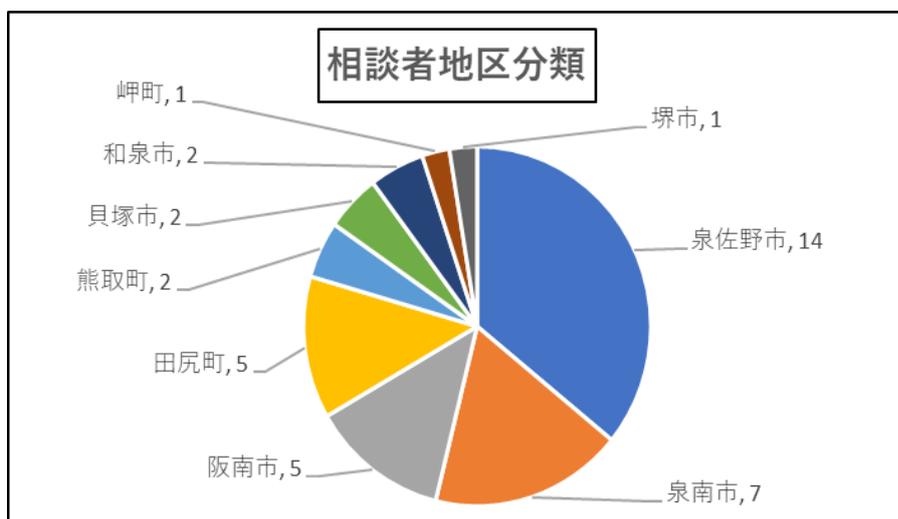
【相談内容】

相談内容区分	件数
医療機関情報	12
在宅医療情報	12
訪問看護	4
ITC活用	2
その他	9
合計	39



【相談者地区分類】

相談者_地区	件数
泉佐野市	14
泉南市	7
阪南市	5
田尻町	5
熊取町	2
貝塚市	2
和泉市	2
堺市	1
岬町	1
合計	39



(相談内容について)

○在宅医情報：・難病患者訪問の在宅医療情報

・ALS患者の在宅医療情報

→在宅協力医療機関リストをもとにご提案した医師に繋がった。

○医療機関情報：・精神科、初診で訪問可能な医療機関情報

→提案の訪問診療医師に早々に連絡をとり、診察に繋がった。

患者と良好な関係で診療が継続している。

・自立支援の方の指示書対応可能、往診もお願いできる医療機関情報

→ご提案の医師の情報で住民の安心に繋がった。

○その他：・MCSの招待の仕方について

・呼吸器使用の方の保険適用について

- ・外来感染対策向上加算について
- ・訪問の ST 情報

◎結果及び考察

- ・相談件数は昨年度より 7 件増えました。
- ・相談内容としては、医療機関情報、在宅医情報が最も多く、在宅協力医療機関リストをもとに、訪問や日頃のつながりから得た独自の情報なども含めて様々なご提案を行いました。結果をお伺いしたところは、地域連携室の資源として情報提供に役立てています。
- ・相談窓口の周知については訪問や会議等いろいろな機会に下記の案内や隔月に発行している WAO 通信でも行っています。
- ・各市町の代表者会議にて具体的な相談内容や回答の一部を報告して気軽に相談いただけるよう周知を行っています。
- ・引き続き、事業所等の訪問時や会議等の機会を活用し、相談窓口の周知を図ります。

◎訪問時等に配布しているお知らせ

在宅医療・介護連携推進事業

医療・介護関係者の皆様へ

泉佐野泉南医師会

地 域 連 携 室

泉佐野泉南医師会 地域連携室では、医療・介護関係者のための

『在宅医療・介護連携相談窓口』

を開設しています。
ご不明なことがあれば、お気軽にご相談下さい。

例えば、こんな相談をお受けします。

在宅医療・
介護連携に
関するご相談

かかりつけ医
在宅診療医
情報の提供

訪問看護
について
のご相談

在宅医療・
介護連携
における
ICT活用

在宅診療
報酬について
のご相談



お問い合わせ窓口

泉佐野泉南医師会 地域連携室

〒598-0063 泉佐野市湊1-1-30

TEL	072-464-6123
FAX	072-464-6133
受付時間	月～金（祝祭日除く）9時～17時
E-mail	renkei @ sano.osaka.med.or.jp

お気軽に
お電話
ください

※平成30年4月より、泉佐野泉南医師会は、3市3町（泉佐野市・泉南市・阪南市・熊取町・田尻町・岬町）からの委託を受けて、在宅医療・介護連携推進事業を実施しています。在宅医療・介護の関係者の方を対象とした研修会の実施、地域資源に関する情報提供など、さまざまな支援を行っています。

5. その他

- 地域の医療介護の資源の把握 * 随時更新を行っています。医師会ホームページに掲載しています。
下記 URL からご覧になれます。

- ・在宅協力医療機関リストの更新

http://www.sano.osaka.med.or.jp/zaitaku_address.pdf

- ・訪問看護ステーション事業所一覧の更新

http://www.sano.osaka.med.or.jp/houmonkanngo-annai_R06_12.pdf

- 医師会ホームページ



①在宅医療について → 在宅協力医療機関リスト

②各種ダウンロード → 訪問看護のご案内
(事業所一覧) 令和6年12月更新



- ・地域連携室では 2 年に 1 回、全医師会会員に向けアンケートを実施し在宅医療機関リストを更新しています。
- ・訪問看護のご案内（事業所一覧）を掲載しています。随時更新。令和 6 年 12 月に更新しています。
- ・特に情報が少ない、他の地域の病院の地域連携室の方に大変に参考になると喜ばれています。

- 医療介護関係者の情報共有の支援

- ・WAO通信の発行

* 奇数月に発行しています。

下記 URL からご覧になれます。

<http://www.sano.osaka.med.or.jp/wao.html>

在宅医療・介護連携推進事業業務委託 収支決算書

(令和6年4月 ～ 令和7年3月)

(単位：円)

科目	金額	内訳	
収入 〔内訳〕	14,893,139	〔内訳〕	
		委託料	
		泉佐野市	4,807,647
		泉南市	3,209,343
		阪南市	2,671,138
		熊取町	2,346,192
		田尻町	790,222
		岬町	1,068,597
収入合計(1)	14,893,139		
支出 〔内訳〕	12,890,633	〔内訳〕	
		・人件費	
		常勤給与：	11,548,133 (諸経費含む)
		非常勤給与：	1,342,500 非常勤4名
	749,212	・報償費	
		SV謝礼：	600,000
		講師謝礼：	149,212
	8,230	・旅費	
		旅費交通費：	8,230
	379,682	・需用費	
		消耗品費：	48,290 事務用品 他
		燃料費：	32,873 ガソリン代
		光熱水費：	298,519 電気代
	232,507	・役務費	
		通信運搬費：	4,754 郵便
			186,503 電話代
		手数料：	41,250 支払手数料
	561,517	・使用料及び賃借料	
		コピー機リース：	188,607 カウンタ料含む
		車リース：	294,910
		会場借上げ料：	78,000
支出合計(2)	14,821,781		
差引収益 (1) - (2)	71,358		